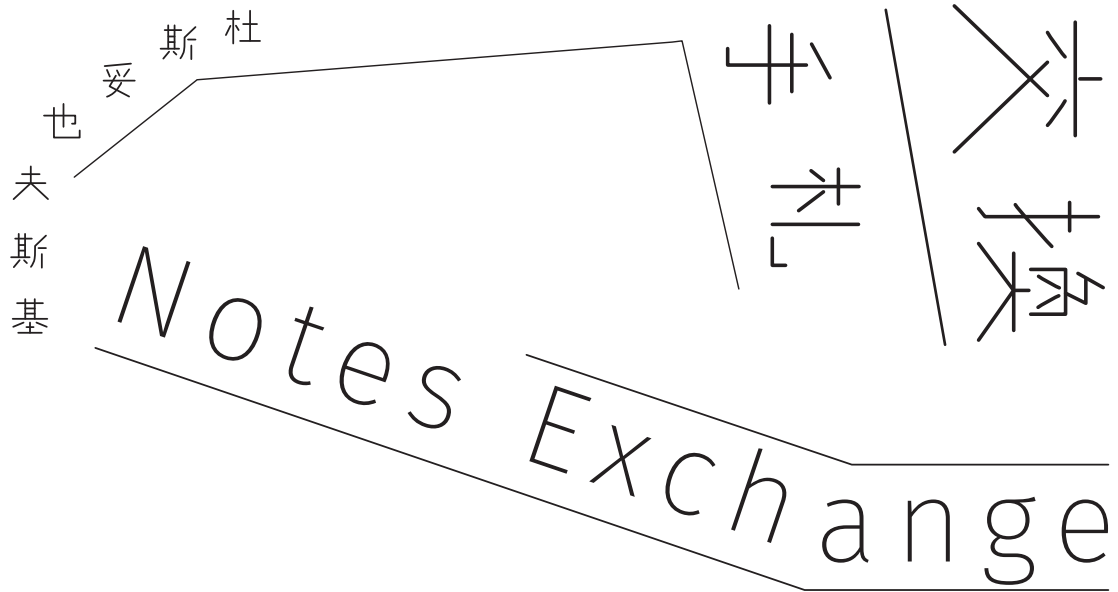


日本と台湾が
ドストエフスキーで
出会う



三重県文化会館プロデュース
第七劇場 日台国際共同プロジェクト
Notes Exchange vol.1 企画書

プロジェクトおよび公演に関するお問い合わせ：第七劇場

5142113 三重県津市美里町三郷2104 tel: 070-1613-7711 (担当直通・10~18時)
mail: info@dainanagekijo.org website: http://dainanagekijo.org

三重公演についてのお問い合わせ：三重県文化会館チケットカウンター

5140061 三重県津市一身田上津部田1234 tel: 059-233-1122

台湾公演についてのお問い合わせ：

Shakespeare's Wild Sisters Group (莎士比亞的妹妹們的劇團)
mail: swsg95@gmail.com 台北市中正區重慶南路一段88號3樓



フライヤー（表）

あらすじ

「地下室の手記」

社会との関係を絶ち、地下室に閉じこもった官吏の独白として語られる。理性による社会変革に絶望し、人間の本性は非合理的なものであることを主張する。人間という存在が抱える根源的な課題を捉えた、ドストエフスキーの転換点とも言える作品。

「罪と罰」

貧しい元大学生ラスコーリニコフは、ある信念に従い強欲狡猾な金貸し老婆を殺害する。しかし家族を支え、強い自己犠牲の精神を持つ娼婦ソーニャとの出会いなどによって、彼の信念は揺らぎ自首するに至り、刑期中に強い人間回復の体験をする。

企画主旨

今年2016年から、私たち三重県を拠点に活動する第七劇場と、台湾・台北市を拠点に世界中で活躍している実力派カンパニー Shakespeare's Wild Sisters Group による3年間にわたる日台国際共同プロジェクトがはじまります。

1年目の今年は世界的文豪ドストエフスキーの作品を、日台それぞれの演出家が、お互いのカンパニーの俳優を混合して舞台化し、日本側作品、台湾側作品の計2作品を連続上演するという贅沢なボリュームで、日本と台湾での公演を実施いたします

台湾側の作品は「地下室の手記」。

日本側の作品は「罪と罰」。

どちらも不朽の名作として、世界中で読み続けられています。

台湾での公演は、台南市で開かれるアートフェスティバル「新舞台藝術節」の正式プログラムとして招待上演されます。

日本での公演は三重県文化会館のみでの上演となります。

台湾側の作品「地下室の手記」を演出するのは、台湾舞台芸術界でもっとも注目を集める演出家・王 嘉明。映像やさまざまなテクノロジーを駆使し、ポップでありながら骨太のドラマを展開することで有名です。昨年も台湾国立劇場でシェイクスピア原作「リチャード3世」の上演を成功させました。

日本側の作品「罪と罰」は、第七劇場・鳴海が演出し、日本人俳優に台湾人女優が加わり製作されます。言わずと知れた長編小説を1時間に凝縮して舞台化。

ツアーにさきがけ、第七劇場の拠点劇場であるThéâtre de Bellevilleにて稽古場公開と試演会、ワークショップや、日台交流会もおこないます。

三重県においては大変珍しい演劇を通じての国際文化交流となるプロジェクトの第一歩である今年。

ぜひご期待ください。

作品情報 (2作品連続上演・途中休憩あり)

原作：ドストエフスキー 美術：鳴海康平 (第七劇場)

台湾作品

Shakespeare's Wild Sisters Group

地下室の手記

ワン・ジャミン

構成・演出：王 嘉明 (Chia-Ming WANG)

出演：Fa

王世緯 (Jasmine WANG)

王安琪 (Angie WANG)

張耀仁 (Yao-Jen Chang)

+ 佐直由佳子 (第七劇場)

舞台監督：鄧湘庭 (Hsiang-Ting TENG)

照明：王天宏 (Tien-Hung WANG)

音響：劉韋志 (Wei-Chih LIU)

衣装：靳萍萍 (Pin-Pin CHIN)

演出アシスタント：盧琳 (Lin LU)

プロデューサー：新田 幸生

上演時間：約60分

人間が愛するのは平穏だけではないんじゃないか？

苦痛を同じくらい愛することだってありえる。

いや、人間がおそろしいほど苦痛を愛し、

夢中になることがあるのも、まちがいに事実だろう。

—「地下室の手記」より

現代ではすべてが濁ってしまったんですよ。

ただ、これまでだって、秩序整然としていたことなんか、

一度もありませんでしたかね。

—「罪と罰」より

フライヤーグラフィックデザイン：
Aaron Nieh Workshop AD by Aaron Nieh Collage
and design by Rivers Yang

日本作品

第七劇場

罪と罰

構成・演出：鳴海康平

出演：小菅紘史

伊吹卓光

八木光太郎

堀井和也

+ 蔡亘晏 (Hana TSAI)

(Shakespeare's Wild Sisters Group)

照明：島田雄峰 (Lighting Staff Ten-Holes)

音響：平岡希樹 (現場サイド)

上演時間：約60分

関連企画

Théâtre de Belleville テアトル ドゥ ベルヴィール
16 秋シーズンプログラム
第七劇場 日台文化交流プロジェクト2016

- 台湾文化の体験ワークショップ

日時 10月8日 (土) 14:00~17:00

- 日台文化交流会

日時 10月10日 (月・祝) 15:00~17:00

- 「罪と罰」稽古場公開

日時 11月3日 (木・祝) 13:00~15:00

- 日台共同製作「罪と罰」試演会

日時 11月5日 (土) 19:30

詳細は企画書7ページをご参照ください。

Notes Exchange

三重県文化会館プロデュース
第七劇場 日台国際共同プロジェクト
Notes Exchange vol.1 企画書

ツアー日程

- 日本公演 平成28年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

会場： 三重県総合文化センター

三重県文化会館 小ホール

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234

開演日時：2016年11月 26日（土）18:00

27日（日）14:00

※受付開始は開演の40分前、開場は20分前

※整理番号順に入場をご案内します

※各回終演後、トークセッションあり

主催：三重県文化会館 [指定管理者：(公財) 三重県文化振興事業団]

共催：レディオキューブFM三重

助成： 文化庁

製作：三重県文化会館 第七劇場 Shakespeare's Wild Sisters Group

[有料託児サービスあり (完全予約制・先着順・27日公演のみ)]

対象：0歳～就学前のお子様

料金：1名につき、1,000円 (税込・おやつ付)

公演2週間前11月12日までにチケットカウンターにお申込みください。

[会場までのアクセス]

近鉄名古屋線・JR紀勢本線・伊勢鉄道「津駅」西口より徒歩約25分

「津駅」西口より三重交道路線バス(系統番号89)約5分

伊勢自動車道「津IC」より車で約10分 / 「芸濃IC」より車で約15分

- 台湾公演 新舞台藝術節 2016 公式プログラム

会場：台南文化中心 原生劇場 (台南市)

開演日時：2016年11月 18～20日

CTBT ARTS FESTIVAL 2016

Tainan Cultural Center, the Native Theater

主催：中國信託文教基金會

莎士比亞的妹妹們的劇團 第七劇場

助成：台北市文化局 國藝會

財團法人建弘文教基金會 信源企業股份有限公司

財團法人許遠東先生暨夫人紀念基金會

公益財団法人交流協会

指導単位：文化部

<http://www.ctbcculture.org>



台北市文化局  財團法人 建弘文教基金會  許遠東先生暨夫人紀念文教基金會



料金

日本公演のチケット発売・ご予約受付開始は
9月17日(土)より

- 料金 (整理番号付き自由席・2作品を鑑賞できます)

一般前売 2,500円 (当日 3,000円)

25歳以下 1,000円 (前売・当日とも)

18歳以下 500円 (前売・当日とも)

※未就学児入場不可

※開場時は整理番号順に入場をご案内

【地下室の手記】中国語上演 日本語字幕付

【罪と罰】日本語上演 中国語字幕付

チケット取り扱い

- 第七劇場 (ご予約のみ)

(特設サイト)

<http://notes-exchange2016.tumblr.com>

- 三重県文化会館

三重県文化会館 チケットカウンター

[10:00～19:00・月曜または月祝翌平日休館]

tel. 059-233-1122

WEBチケットサービス エムズネット [24時間受付]

<https://www3.center-mie.or.jp/tickets/>

※託児サービスあり (完全予約制・先着順)

日時：11月27日(日)の公演のみ実施。

対象：0歳～就学前のお子様

有料：1名につき、1,000円 (税込・おやつ付)

11月12日までにチケットカウンターにお申込みください。

台湾公演のチケット情報

- 新舞台藝術節 2016 WEBサイト

<http://www.ctbcculture.org>

- 兩廳院售票 WEBサイト

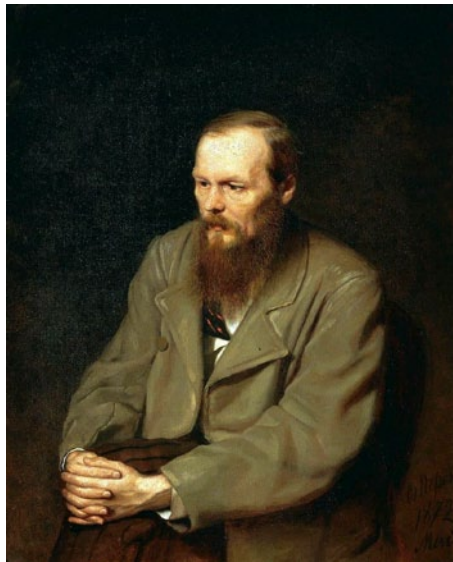
<http://www.artsticket.com.tw>

国際共同の可能性

第七劇場 代表 鳴海康平

今回、台湾との国際共同プロジェクトがはじまるきっかけとなったのは、私たち第七劇場の台湾公演（2014年）でした。それまで私たちは韓国、ドイツ、フランスと海外公演を重ねてきましたが、東京から三重県津市美里町に拠点を移したその年に、国立台北芸術大学の舞台芸術フェスティバルに招待され、チェーホフ原作『かもめ』を上演しました（この作品は2010年に三重県文化会館で上演されています）。この作品を台湾のプロデューサーが大変気に入り、国際共同プロジェクトを提案していただきました。

ただ、ひとつの劇団が国境を越えてプロジェクトを進めるためには、予算や会場確保以外にも、多くの困難を伴います。しかし三重県文化会館さんがこの舞台芸術による国際交流の意義や価値を認めてくださり、三重県文化会館プロデュースとして実現の運びとなりました。この場を借りて心から感謝お礼申し上げます。



フョードル・ミハイロヴィチ・ドストエフスキー
Фёдор Михайлович Достоевский
(1821 - 1881)

19世紀後半のロシア小説を代表する文豪。

今でも世界中の作家に強い影響を与え続ける世界的作家のひとり。宗教的信念や、人道主義的観念に支えられた、人間や社会が抱える根源的な問題をテーマに作品を執筆。理性を全能とらえる風潮に、その暴力性と危険性を感じ、キリスト教などの超越的な存在を受け入れ、魂の救済を描いたとされる。

主な作品

『貧しき人びと』1846年、『死の家の記録』1860年
『地下室の手記』1864年、『罪と罰』1866年
『白痴』1868年、『悪霊』1871年
『未成年』1875年、『カラマゾフの兄弟』1880年

台湾側の提案で驚いたのは、このプロジェクトを「3年間」の長期計画としたい、という条件でした。日本では、さまざまな要件により同様のプロジェクトは1年ないし1度で区切りとなることが多いですが、近年文化に特に注力している台湾の姿勢とともに、プロデューサーの熱意に感動しました。1年では深まりきらない交流や作品の質を、3年という長期スパンで計画することで、より親密な文化交流と作品製作が可能となります。その1年目が今年となります。

1年目の今年は、お互いの俳優を交換=Exchangeして、日台俳優の混成出演者での作品製作をおこない、3年目の集大成においては、日台混成の出演者チーム、日台2人の演出家による共同演出、照明や音響、舞台美術などのスタッフも日台混成で編成される、文字通り日本と台湾が「共同/協働」する作品を予定しています。

今や世界中で「多様性（ダイバーシティ）」「寛容」という言葉が叫ばれています。それはテロや情勢悪化、難民問題などと複雑な裏表の関係にあるといえるでしょう。そして国外だけではなく、国内でも近年はマイノリティにおける課題解決、社会の成熟化に対しても耳にする機会が急速に多くなった言葉です。

文化、特に複数の人間が深く関係する演劇は、多様性や寛容を大きな要件としています。さまざまな考え方や表現、文化を取り込みながら、より良い作品へと昇華させ、一人ひとり考え方が異なる観客と一緒に共有していく作業を、演劇はギリシア時代から脈々と続けてきました。広く考えてみれば、この作業がより良い社会をつくることとまったく同じであるとすぐに気がつきます。

この意味で国際共同は大きな可能性を持っています。アジアにおいて親日として知られる台湾は、日本のお隣さんともいえる距離にありながら、当然言語も文化も歴史も異なります。その台湾の舞台芸術表現を三重県文化会館さんで体験できるのは絶好の機会といえます。

今回は台湾側の提案で世界的な作家である「ドストエフスキー」がテーマ作家となりました。これは面白い、と私も直感しました。地域も言葉も時代も歴史も異なる日本と台湾とロシア。共通点は「人間」のみ。多様な価値観や表現をお互いに練り上げながら今もプロジェクトが進行しています。できあがる作品は多様性を通して、きっと「人間」について新たな発見、刺激となるはずで

日本公演となる三重県文化会館での公演の一週間前には、台湾・台南市で開かれるアートフェスティバル「新舞台芸術節2016」に招待され、正式プログラムとして上演されます。まだまだ日本では触れる機会が少ない台湾の演劇を紹介できること、これからの社会に必要な体験、そしてもっと日常的となるであろう多様性や寛容という局面の一端を、良質な舞台芸術を通して三重県から発信できることを、心から嬉しく思います。

ぜひ劇場で体験してください。お待ちしております。



Shakespeare's Wild Sisters Group (莎士比亞的妹妹們的劇團)

1995年夏に設立。「シェイクスピアの妹たち」の意である劇団名は、イギリスの作家ヴァージニア・ウルフの『自分だけの部屋 (A room of One's Own)』の登場人物が由来。独創的な美学とスタイルを模索し続け、毎年実験的な新作の発表と国内外との文化交流を行う。1997年以降、多くの国・都市に招かれ、これまでに香港、マカオ、北京、青島、釜山、東京、ベルリン、シンガポール、神戸、パリ、アヴィニオンなどで公演。

<http://www.swsg95.com.tw/>



第七劇場

1999年、演出家・鳴海康平を中心に設立。主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価される。国内外のフェスティバルなどに招待され、これまで国内20都市、海外4ヶ国6都市（フランス・ドイツ・韓国・台湾）で作品を上演。2014年、東京から三重県津市美里町に拠点を移設し、倉庫を改装した新劇場 Théâtre de Bellevilleのレジデントカンパニーとなる。 <http://dainanagekijo.org>



王 嘉明 (ワン・ジャミン Chia-Ming WANG)

20年以上、先進的な演劇を製作し続け、常に伝統と革新、大衆性と前衛性を融合させた作品を発表。その作品は核心を失うことなく、広く市民に享受されている。表現の限界を拡張するだけではなく、総合芸術としての演劇の定義を豊かにするために、ジャンルを越境してアーティストと協働。演劇に加えて、広告CMのアシスタントや、ミュージックビデオ、ファッションショーのディレクター、高雄ワールドゲーム2009のオープニングアクトのディレクターを務める。



鳴海 康平

第七劇場、代表・演出家。津あけぼの座、四天王寺スクエア、Théâtre de Belleville、芸術監督。1979年北海道紋別市生まれ。三重県津市在住。早稲田大学在籍中の1999年に劇団を設立。「風景」によるドラマを舞台作品として構成。国境を越えることができるプロダクションをポリシーに製作し、ストーリーや言語だけに頼らないドラマ性が海外で高く評価される。ポーラ美術振興財団在外研修員（フランス・2012年）として1年間渡仏し活動。帰国後2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。



新田 幸生

日本生まれ台湾育ちの独立プロデューサー、国立台北芸術大学大学院アートマネジメント修士課程卒業。フリーの舞台制作者として、演劇とダンスの舞台制作やフェスティバルの制作に関わり、台北を中心に日本やアジアとの国際交流に深めるプロジェクトを数多く手がける。



Théâtre de Belleville テアトルドゥベルヴィル
(第七劇場 拠点・津市美里町三郷2104)

元資材倉庫を改装し、美里町から国内外への文化発信と地域の新しい文化拠点として、2014年11月にオープン。「Belleville」はフランス語で「美しい里」を意味し、Théâtre de Belleville を直訳すれば「美里の劇場」となります。パフォーミングアーツをご覧いただく場としてはもちろん、劇場体験を通じて様々な方々が出会い、交流し、感動を共有できる劇場を目指し、現在春と秋にシーズンプログラムを実施。

theatre-de-belleville.tumblr.com



蔡亘晏 (Hana TSAI)

国立台北芸術大学演劇学科卒業、演技専攻。大学在籍時より、役者としての活動を開始。俳優として映画、舞台などにも出演しながら、ダンサー、CM活動など様々なフィールドで活躍している。今年の公演では、日本側作品に出演。

関連企画

Théâtre de Belleville 16 秋シーズンプログラム 第七劇場 日台文化交流プロジェクト2016

- 台湾文化の体験ワークショップ

日時 10月8日(土) 14:00~17:00

台湾で多彩に活躍する女優・蔡亘晏氏を講師に迎えて、台湾の短い民話をモチーフに表現芸術を用いた体験ワークショップ。親子での参加でもOK。子どもから大人まで、感性を豊かに刺激するプログラム。(通訳あり)

対象：どなたでも

参加費：1,000円(親子で参加の場合は子ども無料)

定員：30名(お申し込みが定員に達し次第受付を終了いたします)

- 日台文化交流会

日時 10月10日(月・祝) 15:00~17:00

台湾人アーティストとの交流会。日台でコラボレーションした短い舞台作品を上演し、終演後にパーティスタイルでの交流会(飲み物・食べ物あり)を実施。舞台作品の感想なども交換しながら、台湾を身近に感じられるプログラム。(通訳あり)

参加費：1,000円(舞台作品鑑賞料込み)

- 「罪と罰」稽古場公開

日時 11月3日(木・祝) 13:00~15:00

料金：無料 入退場自由

- 日台共同製作「罪と罰」試演会

日時 11月5日(土) 19:30

料金：500円、18歳以下無料 ※全席自由

※受付開始は開演の1時間前、開場は30分前から。

※津あけぼの座劇場支援会員対象公演

上記、関連企画の詳細、およびお申し込み

Théâtre de Belleville : <http://theatre-de-belleville.tumblr.com>

第七劇場 日台文化交流プロジェクト 2016

主催：第七劇場 共催：Théâtre de Belleville

協力：三重県文化会館

津市国際交流事業補助金活用事業

Théâtre de Belleville 16 秋シーズンプログラム

主催：Théâtre de Belleville

協力：特定非営利活動法人パフォーミングアーツネットワークみえ

後援：津市